

2008年3月期 上期 決算概要

2007年11月13日
NECエレクトロニクス株式会社
代表取締役社長 中島 俊雄
<http://www.necel.com/ir/ja/>

本日はご多忙のところお集まりいただき、ありがとうございます。

2008年3月期 上期の決算概要についてご説明させていただきます。

I. 2008年3月期 上期 業績概要

- ✓ 売上高・損益とも期初予想を上回る水準
- ✓ 着実な固定費削減の実施等により、営業黒字を回復

II. 2008年3月期 通期 業績見通し

- ✓ 第4四半期に不透明感が残り、現時点では年間業績予想を据置き
- ✓ 引続き下期も営業黒字を最低限として、さらなる業績改善を目指す

III. 業績改善に向けた取り組み

- ✓ 2月22日発表の新経営方針を着実に実行中

こちらが本日のご説明内容のサマリでございます。

まず、上期の業績は、売上高・損益とも期初予想を上回り、特に営業損益では黒字を回復致しました。

次に、今年度の業績見通しでございますが、上期は好調に推移したものの、特に第4四半期の半導体市況の不透明感等を考慮し、現時点では通期業績予想を据置きと致します。

最後に、新経営方針の進捗状況と関連する事業方針等についてご説明致します。

I. 2008年3月期 上期 業績概要

II. 2008年3月期 業績見通し

III. 業績改善に向けた取り組み

それでは、上期の実績からご説明致します。

業績サマリ

(単位:億円)	08/3期				
	1Q, 6/30	2Q, 9/30	上期, 9/30		
	実績	実績	実績	前年同期比	前下期比
売上高	1,736	1,774	3,510	+80	+17
半導体売上	1,650	1,691	3,341	+63	+22
営業損益	△22	41	19	+88	+235
税前提損益	4	14	18	+74	+316
当期純損益	△13	△17	△30	+44	+311
フリーキャッシュフロー	△59	162	103	△32	+355
D/Eレシオ	0.50倍	-	0.51倍	-	-
株主資本比率	39%	-	38%	-	-
為替レート	1US\$=119円 1Euro=160円	1US\$=120円 1Euro=164円	1US\$=120円 1Euro=162円	対US\$ 4円安 対Euro 17円安	対US\$ 1円安 対Euro 8円安

注: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。

NEC ELECTRONICS

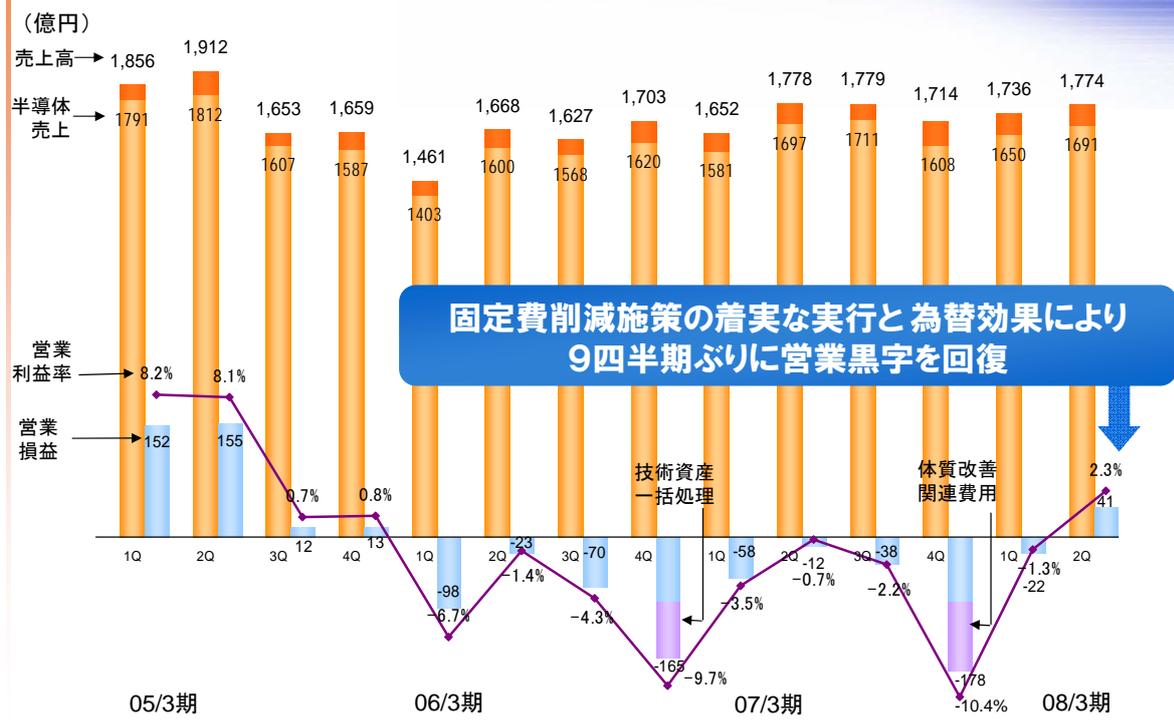
4

まず、上期実績のサマリでございます。

売上高は、前年同期との比較では2%増加の3,510億円となりました。当社の主力事業である半導体売上高も前年同期比で2%増加の3,341億円、また、営業損益は前年同期比で88億円改善し19億円の利益となりました。

税前提損益は18億円の黒字、当期純損益は海外法人の税金費用等により30億円の損失となりました。

四半期別業績推移



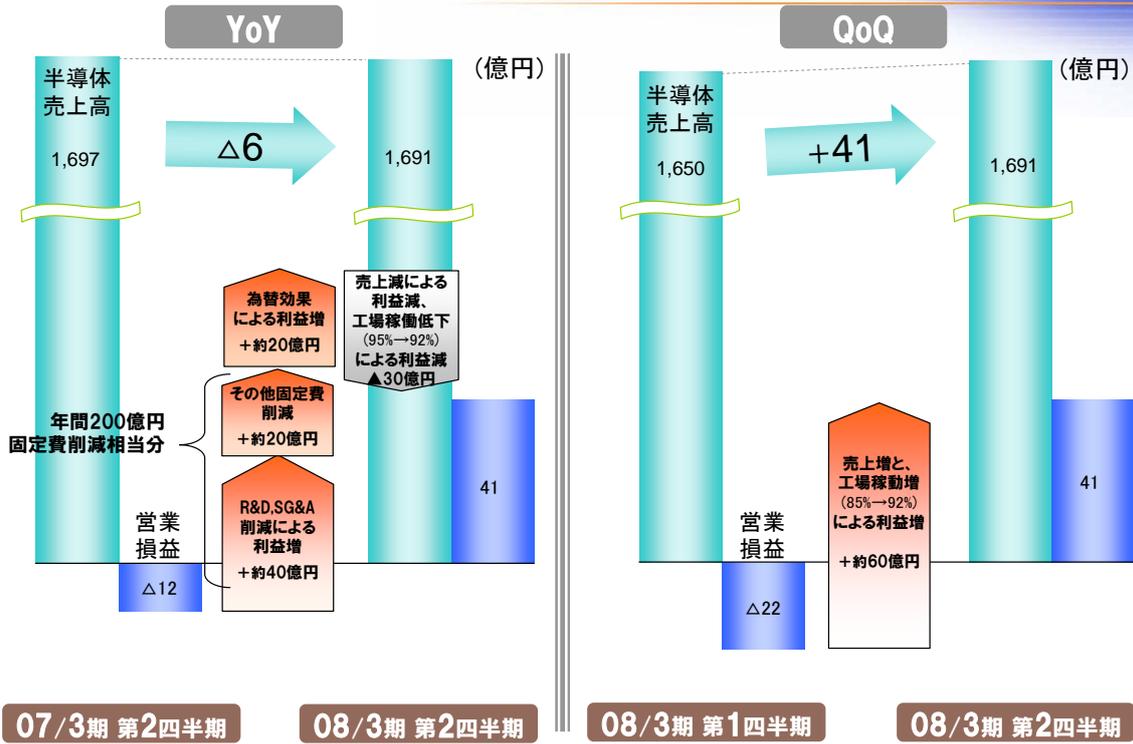
注: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。

次に、四半期ごとの業績推移です。

第2四半期は、固定費削減施策の着実な実行等により営業黒字を回復致しました。

営業損益の主な増減要因

NEC



07/3期 第2四半期

08/3期 第2四半期

08/3期 第1四半期

08/3期 第2四半期

注 R&D費:研究開発費、SG&A費:販売費および一般管理費

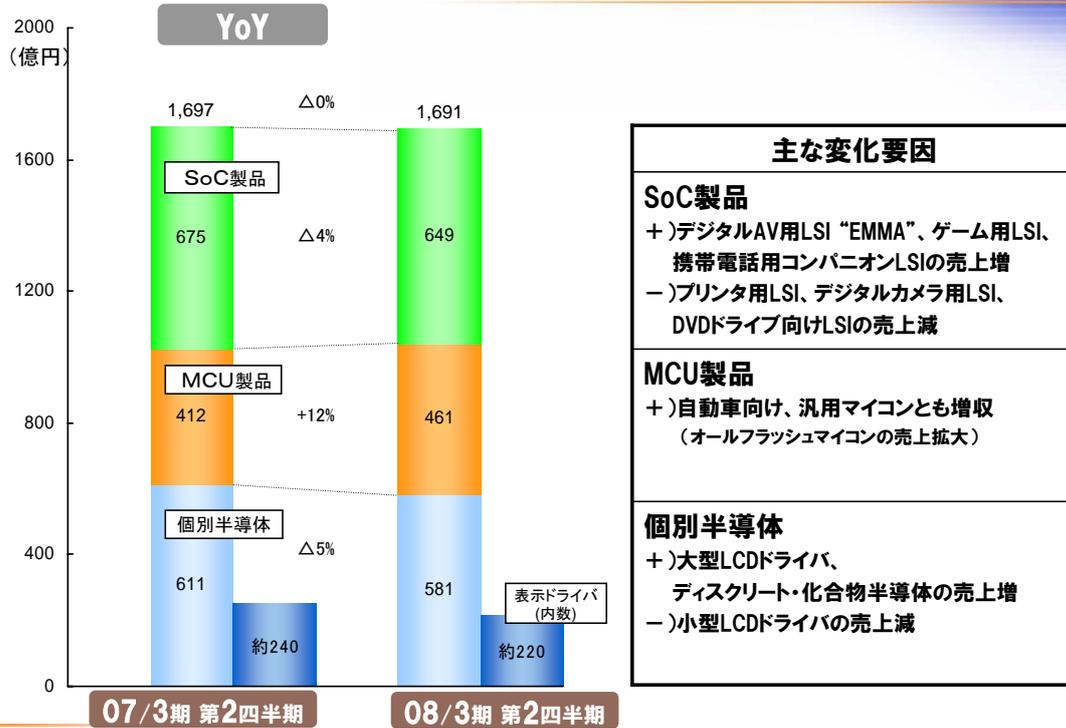
NEC ELECTRONICS

6

6ページは、第2四半期の営業損益を前年同期および前期と比較したものです。

まず、①前年同期比では、研究開発費(R&D)を始めとした費用削減を着実に実行したこと等により、また、②前期との比較では、固定費増加を抑えながら売上増と生産増等により、営業黒字を回復致しました。

製品別 半導体売上高(前年同期比較)



次に半導体売上高についてご説明いたします。

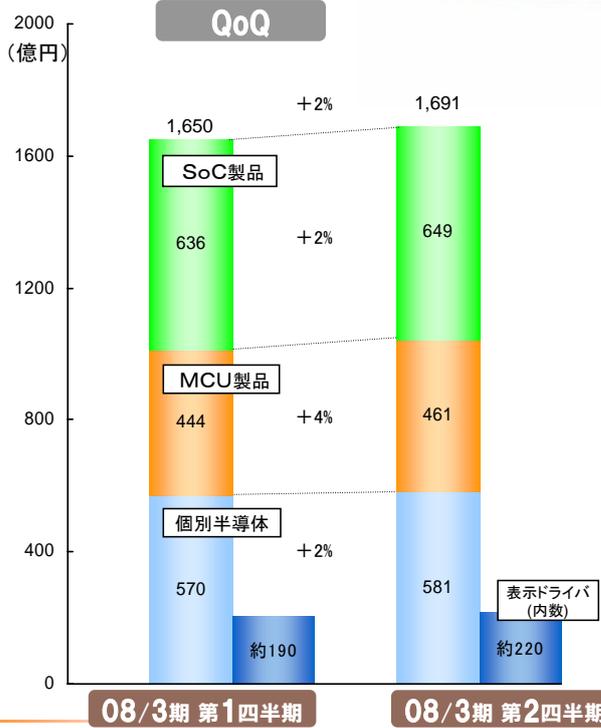
7ページは、第2四半期の製品別の半導体売上高を前年同期と比較したものです。

SOCでは、デジタルAV機器向けLSI ‘EMMA’ がデジタルテレビやDVD機器向けに大きく売上を伸ばしたものの、プリンタやデジタルカメラ用のLSIがモデル変更等の影響を受け減収となりました。

MCU(マイクロコントローラ)は、自動車向けは特にボディ用途の売上拡大により、汎用マイコンは特にオールフラッシュマイコンの売上拡大により、二桁の成長となりました。

個別半導体では、大型LCDドライバが過去最高の売上を記録したものの、小型LCDドライバが大きな減収となりました。

製品別 半導体売上高（前期比較）

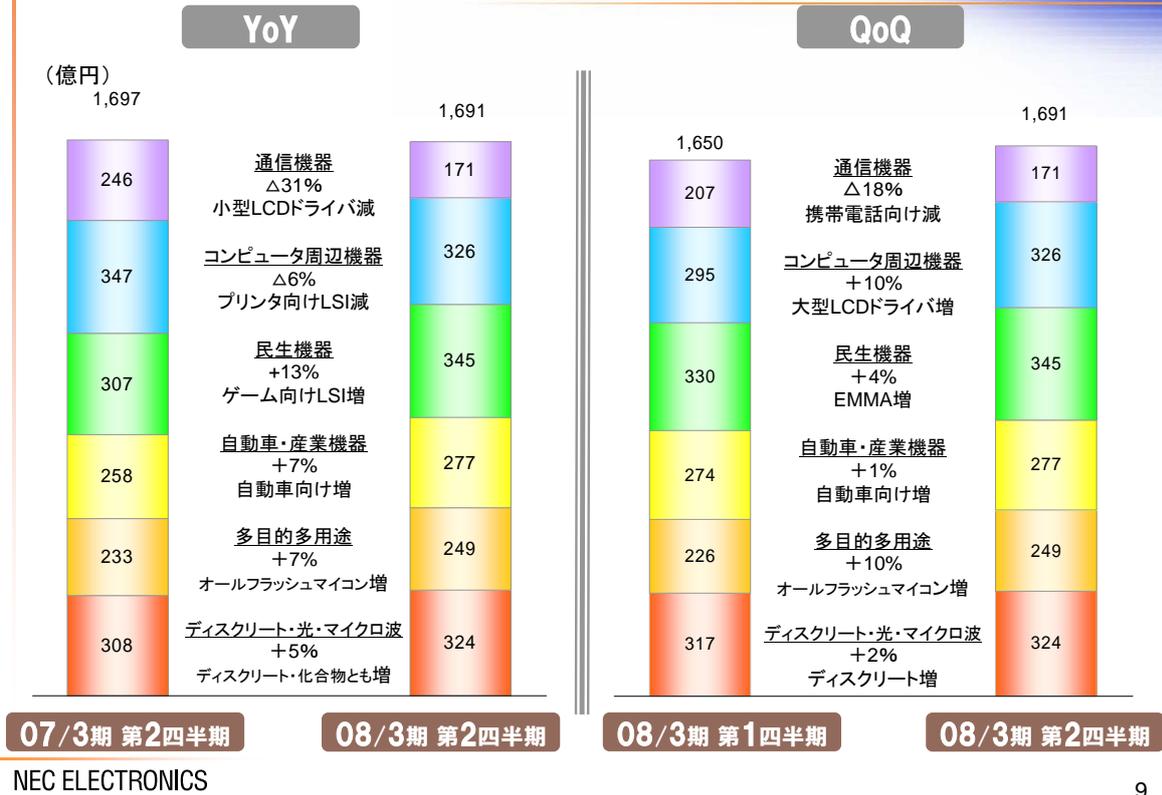


主な変化要因
SoC製品 +) デジタルAV用LSI "EMMA"、PC関連機器向けLSIの売上増 -) 携帯電話向けベースバンドLSI、一部民生関連向けLSIの売上減
MCU製品 +) 自動車向けマイコン、汎用マイコンの売上増 (オールフラッシュマイコンの売上拡大)
個別半導体 +) ディスクリート・大型LCDドライバの売上増 -) 小型LCDドライバは調整継続

また、第1四半期との比較では、各製品群ともに伸張し、2%の売上増となりました。特に、デジタルAV機器用LSI'EMMA'、オールフラッシュマイコン、大型LCDドライバなどが大きく増収となりました。

分野別 半導体売上高

NEC



次に、第2四半期の半導体売上を分野別に見てみますと、前年同期比・前期比とも、引き続き通信機器分野が苦戦しておりますが、民生や自動車といった当社注力分野と多目的多用途分野が比較的好調に推移いたしました。

バランス・シート

NEC

(単位:億円)	06/9	07/3	07/9
現金および現金同等物	2,220	1,854	1,914
受取手形および売掛金	1,167	995	1,003
たな卸資産	803	792	802
有形固定資産	3,086	2,962	2,825
その他の資産	494	356	336
総資産	7,770	6,959	6,879
支払手形および買掛金	1,692	1,325	1,300
社債および借入金	1,460	1,360	1,329
その他の負債	1,595	1,575	1,587
負債	4,748	4,260	4,216
少数株主持分	42	48	53
株主資本	2,980	2,651	2,611
負債、少数株主持分および資本合計	7,770	6,959	6,879
D/Eレシオ(グロス)	0.49倍	0.51倍	0.51倍
株主資本比率	38%	38%	38%
<補足>			
繰延税金資産	118	107	112
繰延税金負債	108	109	137

NEC ELECTRONICS

10

次にバランスシートです。

上期末の総資産残高は、6,879億円で、前半期末(07/3)と比べ80億円の減少となりました。株主資本は、2,611億円で、前半期末(07/3)と比べ40億円の減少となりました。

DEレシオは0.51倍、株主資本比率は38%と、それぞれ前半期(07/3)と同水準となっております。

キャッシュ・フロー

(単位：億円)	07/3期	08/3期		上期
	上期	1Q	2Q	
営業活動による キャッシュ・フロー	346	15	277	291
投資活動による キャッシュ・フロー	△211	△73	△115	△188
フリー・キャッシュ・フロー	134	△59	162	103

キャッシュフローでございますが、

上期の営業活動によるキャッシュ・フローは291億円の収入、投資活動によるキャッシュ・フローはフォトマスク事業の譲渡や所有設備の売却による収入があったものの、有形固定資産の購入による支払等により188億円の支出となりました。

この結果、フリー・キャッシュ・フローは103億円の収入となりました。

I. 2008年3月期上期 業績概要

II. 2008年3月期 業績見通し

III. 業績改善に向けた取り組み

次に、今年度の業績見通しについてご説明致します。

第4四半期の不透明感等を考慮し、現時点では通期業績予想を据置く
下期も営業黒字を最低ラインとしてさらなる業績改善を目指す

(単位:億円)	07/3期		08/3期				
	年間	上期			年間		
	実績	期初予想 (5月14日)	実績	差異	期初予想 (5月14日)	今回予想	差異
売上高	6,923	3,350	3,510	+160	6,900	6,900	0
半導体売上	6,597	3,250	3,341	+91	6,700	6,700	0
営業損益	△286	△50	19	+69	0	0	0
税前損益	△354	△120	18	+138	△100	△100	0
当期純損益	△415	△150	△30	+120	△150	△150	0

為替レート

1US\$=	117円	115円	120円	5円安	115円	下期115円
1Euro=	149円	150円	162円	12円安	150円	下期155円

注1:当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです
注2:予想値は2007年11月13日現在

今年度の業績予想でございますが、これまでご説明致しました通り上期は想定を上回る業績となりましたが、特に第4四半期の半導体市況の不透明感等を考慮し、現時点では通期見込みを据置くことと致しました。

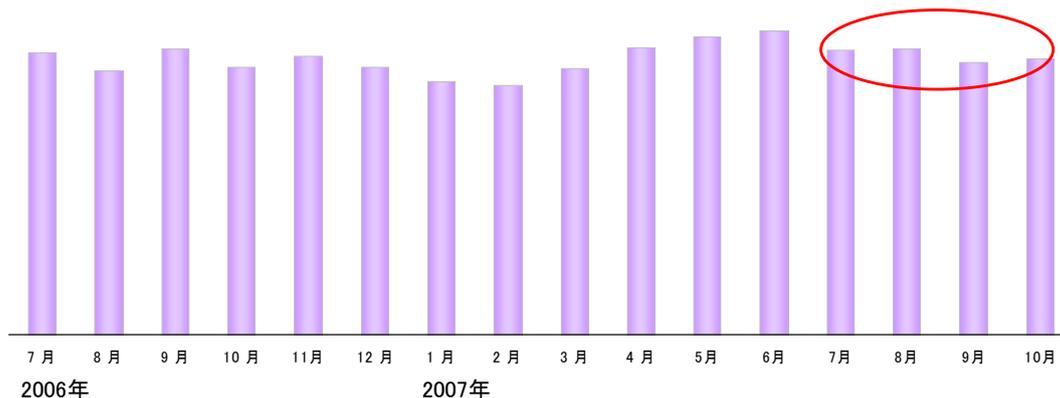
通期営業黒字化は当然のことながら、下期も営業黒字を維持しながら、さらなる業績改善を目指し、下期の事業運営を行って参ります。

当社の受注高の推移

NEC

マイコン・ディスクリート等の汎用製品は堅調だが、
LCDドライバ・携帯電話関連LSIで個別要因による調整あり

月別受注高推移



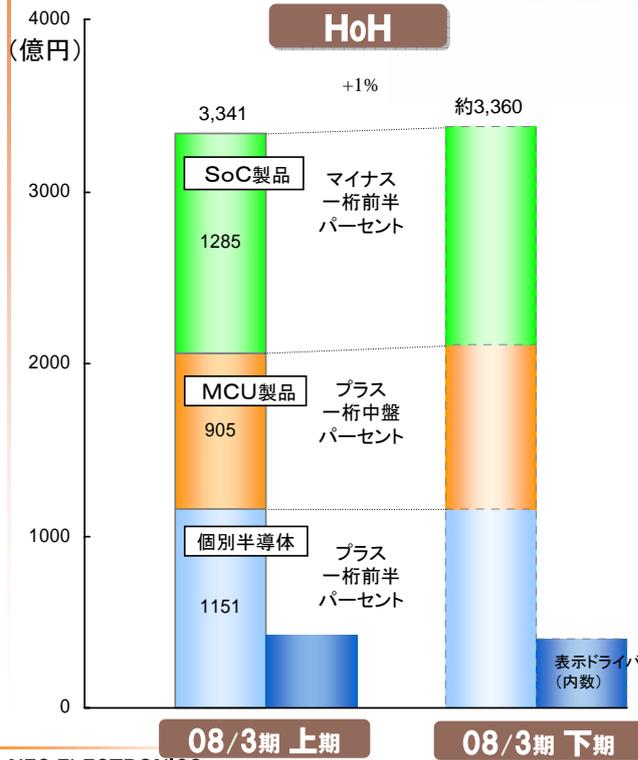
NEC ELECTRONICS

14

このページは、半導体の受注高の月別推移をお示したものです。

半導体市況と連動性の強い汎用製品の受注は引続き堅調であります。一部のLCDドライバや携帯電話向けLSIが個別のビジネス要因で弱含んでおり、かならずしも楽観できる状況ではないと考えております。

下期 半導体売上高見込み（前期比較）



主な変化要因	
SoC製品	+) デジタルAV機器向け“EMMA”、DVDドライブ用LSIの売上増 -) 携帯電話向けデジタルベースバンドLSI、デジタルカメラ用LSIの売上減 (期初計画との差：約△30億円 デジタルカメラ、プリンタ向けLSIの不振等)
MCU製品	+) 自動車向け・汎用とも売上増 (期初計画との差：約+10億円 オールフラッシュマイコン好調等)
個別半導体	+) 小型LCDドライバの回復・売上増 -) 大型LCDドライバの売上減 (期初計画との差：約△70億円 LCDドライバの在庫調整等)

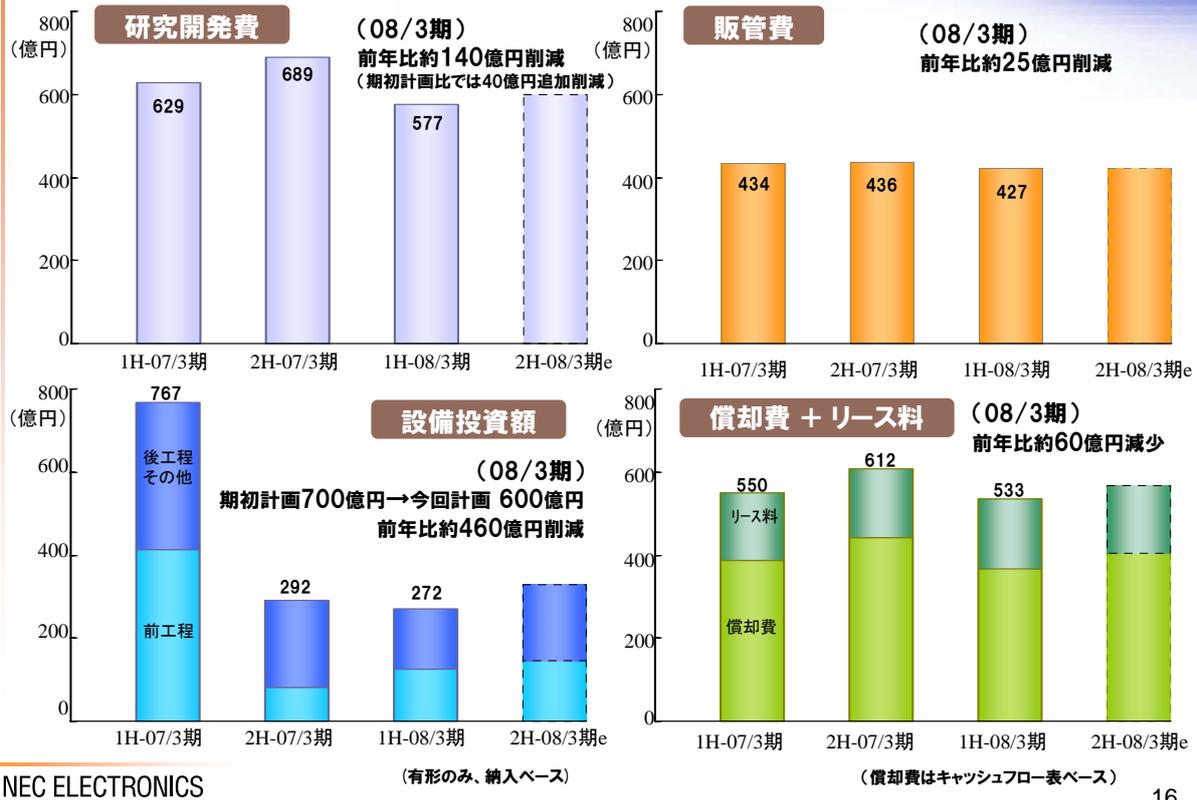
本項は下期の半導体売上見込みを上期実績と比較したものです。

SOC製品は、デジタルAV機器向けEMMAの売上が引続き拡大することに加え青色DVDの普及等によるドライブLSIが増収となるものの、携帯電話向けデジタルベースバンドLSIが減収となる見込みです。

MCU製品は、自動車向け・汎用とも引続き増収を見込んでおります。

個別半導体では、小型LCDドライバの回復を見ておりますが、大型LCDドライバが上期比で減収となる見込みです。

主な営業費用と設備投資の推移



16ページは、主な費用等の推移をお示したものです。

まず、研究開発費は、期初計画からさらに約40億円削減し前年比で約140億円削減する計画です。

また、設備投資についても期初計画からさらに100億円削減し600億円とする計画であります。

このように、前年比200億円の固定費削減の計画を着実に実行することはもちろん、さらなる効率化と費用削減の検討を進めてまいります。

下期を中心に構造改革関連費用を計上

(単位: 億円)	07/3期 年間	08/3期									
		上期			下期			年間			
		実績	期初予想 07年5月14日 時点	差異	実績	差異	今回予想	期初予想 07年5月14日 時点	差異	今回予想	差異
		△68	△70	±0	+70	△30	△約100	△約70	△100	△100	0
営業外 損益	主な 雑 収 益	フォトマスク事業譲渡 >当社子会社NECファブサーブのフォトマスク事業を大日本印刷株式会社に譲渡(2007年6月)									
	主な 雑 損 失				インドネシア工場閉鎖 >挿入実装型パッケージ後工程工場 2007年11月から清算手続き開始 生産再編関連費用 >固定資産廃棄・売却損等 訴訟関連費用引当 その他構造改革関連費用						

注1:当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです
 注2:予想値は2007年11月13日現在

次に、営業外損益の見通しについてご説明いたします。

年間での予想は100億円の損失と期初予想を据置いておりますが、第1四半期にフォトマスク事業譲渡益を計上したことや、構造改革関連費用の計上が下期にスライドすること等により、期初予想にくらべ下期偏重となっております。

下期の主な雑損失には、インドネシア工場閉鎖費用、生産再編関連費用、独禁法にかかわる訴訟関連費用等の引当、その他追加の構造改革関連費用を見込んでおります。

I. 2008年3月上旬 業績概要

II. 2008年3月期業績見通し

III. 業績改善に向けた取り組み

最後に、業績改善に向けた取り組み等についてご説明致します。

新経営方針に基づいた各施策を着実に実行中

主な内容		進捗等
開発 ポートフォリオ 再構築	約600人相当の技術外注削減	済み
	約400人の社内開発リソースのシフト	過半数済み (今年度中に400名完了予定)
生産体制再編		顧客交渉等実施中
前工程	<ul style="list-style-type: none"> ▶九州8インチ、関西8インチの能力増強 ▶山形8インチ、関西6インチ、九州6インチ 各ラインの集約、大口径ラインへの生産移管	一部ラインで設備移設と生産移管を実施中
後工程	汎用製品の海外シフト	
事業組織体制	SoC、MCU、個別半導体の3事業をビジネスユニット化、損益管理強化	制度の構築完了 運用開始
固定費削減	技術外注費削減、設備投資等の削減による生産関連固定費減 人件費含むその他固定費削減	実施中 08/3期 前年度比200億円削減予定

まずは、2月22日にお示した体質改善プランの進捗等につきご説明致します。

開発ポートフォリオ再構築に関しては、外注費削減と開発リソースシフトを計画通り完了する予定です。

生産体制再編については、生産移管計画に基づき顧客と交渉中であり、一部のラインでは既に設備移設を開始しています。

また、5月に組織変更を実施した製品群軸でのビジネスユニット体制は、投資効率化や費用削減など損益管理面で効果が現れてきております。

固定費削減についても、前年度比200億円削減という期初計画を上回るレベルで実施すべく諸施策を検討しております。

基幹プロセス開発の加速と差異化プロセスへの注力

- 40nmプロセス(当社55nmの次世代プロセス)
 - NEC山形で量産、来年度(2009年3月期)末から量産開始予定
- 32nmプロセス
 - 2007年末までに開発方針(他社との共同開発)を決定し、発表する
 - 生産に関しても検討、協議する

それでは、2月22日の施策に加えて、いくつかの事業方針について、ご説明します。
まずは、当社の先端プロセス開発・生産方針についてです。

開発費が膨大になっている先端プロセスについては、共同開発により開発を加速いたします。また、当社の持つeDRAM技術やフラッシュ混載ロジック技術、高信頼性プロセスにより、他社と比較して差異化できると考えております。

まずは、当社の55ナノの次世代プロセスである40ナノプロセスについてです。これは東芝と共同開発した45ナノ製品の派生プロセスであり、低消費電力の標準となるものです。このプロセスをNEC山形に展開いたします。

当社は、NEC山形の300mmラインで来年度末に量産を開始する予定です。これは、300ミリラインに配置する55ナノプロセスの設備が、多くの工程で同じものを活用できるからです。また、状況に応じ外部ファブも活用していく方針です。最初の製品はeDRAMベースのASICとなる予定です。

また、32ナノ世代については、他社との共同開発を前提とした開発方針決定の最終段階に入っており、年内にはその方針を決定いたします。この方針が確定しましたら、皆様にもご報告させていただきます。

また、生産に関しても検討、協議していきます。

デュアル通信方式対応プラットフォーム M2 の拡販に注力

- ▶ 研究開発が一巡し、開発費は大幅に減少
- ▶ M2は今秋から出荷開始、回収フェーズに入る
- ▶ 海外も含めた新規デザインイン活動にも注力

次に携帯電話向けLSI事業についてですが、当社はデュアル通信方式対応プラットフォームであるM2の開発が完了し、このほどその出荷を開始しました。

M2は、回路設計で低消費電力を実現しており、この強みを活かして海外も含めた新規のデザインイン活動に一層注力いたします。

また、開発費についてはM2の開発が完了したことにより、今年度および来年度の開発費が大きく減少いたします。

これらにより、携帯ビジネスの収益性は来年度以降大きく改善していきます。

市場拡大の中で高いシェアをもつコア事業として
さらに競争力を強化

■ 戦略的な提携の構築

- ▶ 技術力での優位性の維持
- ▶ 当社の業界でのポジションを強化するための生産力のある戦略的パートナーとのアライアンスに向け交渉中



ウエハ調達コストの削減により価格競争力も向上

また、表示ドライバ事業についても、皆様から課題事業と指摘されておりますので、方針をご説明いたします。

当社のLCDドライバ事業は、世界第2位の規模を誇るビジネスであり、また大型LCDドライバを中心に市場拡大が期待できる、当社にとってコア事業です。

足もとの業績は若干の黒字という状況ですが、当社のバックライトコントロール技術や高画質技術は、台湾企業と比べて技術的に優位性を保持しております。

この当社の技術力と当社の生産力を補う外部の戦略的パートナーとのアライアンスにより、当社はLCDドライバでポジションを向上していきたいと考えております。

また、このアライアンスの結果、自社へのLCDドライバへの能力増強のための設備投資も抑制し、コスト競争力を高めていくことができると考えております。提携先の相手については、現在交渉中でありコメントできませんが、色々な可能性を検討していきたいと考えています。

カーナビゲーション領域に新規参入

- ARM11クアッドコア並列処理等により業界最高1920MIPSを実現
- 売上目標:100億円/2010年、300億円/2015年
- 量産開始予定:09年3月期下期

パワーMOSFET事業強化

- NEC関西に8インチ専用ライン施設
- 量産開始予定:09年3月期下期
- 生産能力:最大約10K枚/月、投資予定額:約100億円

当社の注力事業である自動車向けについては、以下の2点をコメントしておきたいと思えます。

1つ目はカーナビゲーション領域に新規参入するということです。これは、並列処理技術を駆使して業界最高レベルのパフォーマンスを実現しており、来年度の下期から量産を開始し、2010年には年間100億円の売上、2015年には年間売上で300億円程度を計画しています。

また、NEC関西の8インチラインには自動車向けも含めてパワーMOSFETの事業強化のため、8インチラインの能力増強を行います。最大で月1万枚のラインを構築する計画です。

参考:

NEC

少数特定者持株比率に関する猶予期間入り解除のお知らせ

**当社株式につきましては、
本年7月10日に東京証券取引所により「株式の分布状況」
(株券上場廃止)に係る猶予期間に入る旨が公表されて
おりましたが、上場制度総合整備プログラムの導入による
改正規則の適用により、本年11月1日に株券上場廃止の
猶予期間入り銘柄から解除されました。**

NEC ELECTRONICS

24

ここで、ご参考として、上場廃止の猶予期間入り銘柄からの解除についてお知らせ致します。

**11月1日の広報発表の通り、当社株式につきましては、
本年11月1日に株券上場廃止の猶予期間入り銘柄から解除されております**

- 上期業績は期初想定を上回り、営業黒字を回復
- 第4四半期の不透明感を考慮し、現時点では通期業績予想を据置く
下期も営業黒字を最低ラインとして、業績改善を目指す
- 来年度以降の成長に向けて、開発の一層の効率化と他社との戦略的提携関係構築に取り組む

最後に本日のまとめでございます。

まず、上期業績は期初想定を上回り、営業黒字を回復することが出来ました。
しかしながら、第4四半期に不透明感が残るため、現時点で通期業績予想を据置きと致しました。引き続き下期の営業黒字を最低ラインとし業績改善を目指して参ります。

さらに、来年度の成長に向け、2月22日の経営方針を着実に実行するとともに、

- ・開発における一層の効率化と
- ・製造も含めた他社との戦略的提携関係の構築

を進め、経営改革を加速して参ります。

引き続き皆様のご支援をお願い申し上げます。
ありがとうございました。

NEC

NEC Electronics Corporation

(将来予測に関する注意)

本資料に記載されている当社および連結子会社(以下NECエレクトロニクスと総称します。)の計画、戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与える重要な要因としては、(1)NECエレクトロニクスの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、(2)市場におけるNECエレクトロニクスの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、(3)激しい競争にさらされた市場においてNECエレクトロニクスが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、(4)為替レート(特に米ドルと円との為替レート)の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因があります。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。